



ピンチはチャンス！ 新しい発想でチャレンジ



居場所 W.Coだからこそ、できることがある

マイクロプラスチックが世界的な問題となり、風車のリユース食器レンタル事業が伸びてきた矢先、新型コロナウイルスの影響で、2月以降の注文はすべてキャンセル。居場所事業も非常事態宣言で3月末から2カ月余の休業。自宅にひきこもらざるを得ない利用者さんには大きなストレス、事業所にとっても大打撃です。

居場所として何が出来るか…。閉所中、孤立感に陥らないよう、離れていても風車とつながっていることを伝えるため、メール配信、往復はがきの他、風車だよりにメッセージやメンバーさんの作品、コロナ感染注意点などを掲載し、郵送。メールでの相談受付の他、5月からは電話相談も始め、困りごとや悩みなどに対応してきました。開所を再開してからは、健康確認票を作り、熱や健康状態、マスク着用などをしっかり確認。さらに、ビニールとハンガーラックで仕切りを作り、フェイスシールドやアルコール消毒液、マスク、酸素濃度計なども購入。そうした経費に加え、月10万円以上の家賃や光熱費などの支払いは待ったなしです。

それでも、不安を抱える利用者さんが少しでも楽しく安心して過ごせるよう、外出の機会も増やし、ブルーベリー摘みやラベンダー畑などへの遠足を企画。自然に触れ、解放感を味わう時間は大切です。3密を避けながら、オープンダイアログや歌カフェも再開しました。

7月、福祉の現場が安心して事業を行えるよう、PCR検査実施を訴える要望書を県と市に提出しました。

居場所事業のういずも状況は同じです。W.Coだからこそできることがあるはずと、新しい試みにもチャレンジしていきます。



ラベンダー畑で散歩



ビニールの仕切りとマスク、玄関で靴と手の洗浄フェイスシールドで感染予防

風車 猪俣悦子

食 コロナ対策から今後の事業へ

新型コロナウイルスは、食の事業所にも様々な悩みをもたらしました。

「ハープ」では通常使用しているお弁当箱をやめ、ビニールパックに詰め替えました。容器は変わっても、幼稚園・保育園の育ち盛りの子どもたちには今まで通りバランスのとれた安心食材での給食を、また仕出し弁当も野菜たっぷりで優しい味の手作り弁当を、引き続きお届けしていきます。「菜の花」では、メンバーの高齢化と人手不足により、これまで通りの営業を続けることは難しく、「働き方」について課題となっていました。そんな時に新型コロナウイルスは徐々に広がり、身近なところまで



店の入口にアルコール消毒液と、協力お願いの張り紙

みんなマスクでミーティング

感染が迫ってきました。外出自粛要請が発令されてから、徹底した対策を行った上で、縮小営業を実施しました。営業時間の短縮に伴い、出荷量と作業人数を削減し、配達

は常連の方のみに絞り、ワーカーズもできるだけ密にならないよう作業を手早く終え、帰宅するようにしました。

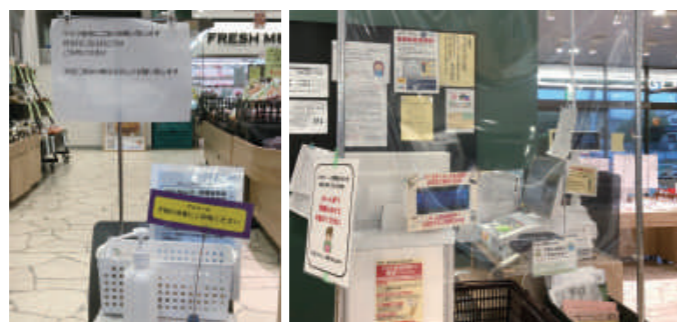
緊急事態宣言中は休業とし、その後も一部、元に戻しつつ、コロナ対策営業を継続しています。縮小による売上高は昨年同月より3割減となり、金融機関の「危機対応融資」や松戸市の「売上回復支援補助金」等検討しましたが、細かい点で対象とならず、申請できませんでした。ですが、コロナ対策として行ってきたことは今後の営業へと繋がる部分もあり、さらに新しい発想で働き方を考えていきたいと思っています。

菜の花 大久保千穂

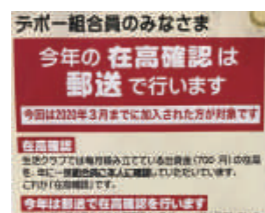


受託 デポーや配送もコロナ対応で

デポーではコロナウイルス感染防止の対応を生活クラブの指針に従い、対策をとっています。ワーカーズの検温、マスク着用、手洗い消毒はもちろんですが、レジにウイルス防止カーテンの設置、買い物かごやカート、人の手の触れる箇所等のアルコール消毒も実施しています。予定していたイベントや生産者交流会などはすべて中止になりましたが、皆、自己管理をしながらがんばってオープンを続けています。来所をお待ちしています。



デポーの入口、レジ周辺も注意書きと、さまざまなコロナ対策が…



健康観察をします。体力には自信がありますが、この未知のコロナウイルスには恐怖しかありません。怯えているのは、配達先の組合員さんも同じです。これまでは玄関先でお渡ししていましたが、お約束した場所に置いておくこともできます。インターフォン越しですが、ご挨拶も欠かしません。

一日も早い終息を願うとともに、また組合員さんと他愛のないお話ができることを心待ちにしています。

ワーカーズ・結 山崎久美子

◆ ◆ 配送ワーカーズ結も就業前には必ず消毒、検温、

コロナ緊急アンケートの結果より

新型コロナウイルス感染拡大の脅威が広がる中、食の事業所は、テイクアウトや予約制に切り替えて事業を継続してきましたが、幼稚園や会議のお弁当受注が減るなど、3～6月で概ね3割から7割ほど収入の落ち込みがみられます。包材の高騰やアルコールや消毒液の購入で思わぬ出費も嵩んでいますが、安心安全な生活クラブの消費材で、手作りの惣菜やお弁当を一人でも多くの人に届けたい、また購入してくださった方への信頼や期待に丁寧な仕事で応えて感謝を伝えたいというのが食のW.Coの事業継続にける思いです。

人と人のつながりや密な関係が前提となる福祉系の事業所の打撃は甚大です。高齢者を対象とした居場所事業では、ういずは柏市からの自粛要請で4カ月間、一切開設できず、収入は0円でした。エッコロの日常生活支援サービスも、葬祭さぼーと事業も生活クラブからの自粛要請で仕事を失いました。風車では、コロナ禍でイベント自体が中止となり、リユース食器の受注もすべてキャンセルとなりました。

コロナが収束したとしても、福祉系の事業所では、

新しい生活様式での事業展開や働き方への転換に迫られています。事業の目的や本質を見極めて、すべきことをするしかない状況です。

生協の受託事業は逆に需要が増え、仕事量の増加は委託料にも反映されましたが、感染不安、人手不足、過重労働などの問題を抱えました。

ピンチをチャンスに、ワーコレだからできること。これからもwithコロナへの模索は続きます。

ういず、COS 北田恵子

コロナ補助金・助成金情報

- 持続化給付金 (法人と個人事業主) 上限200万円
前年度の同じ月に比べて、収入が50%減少していることが条件
- 雇用調整助成金 8330円 / 人・日・事業所
雇用を維持するために休業分について
- 小学校休業等対応助成金 8330円 / 人・日
- 小規模事業持続化補助金
生産性向上のための取り組みに対して50万円
対象経費の3/2の補助
(機械装置導入・広報費・開発費)